

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

高山市まち・ひと・しごと創生計画

2 地域再生計画の作成主体の名称

岐阜県高山市

3 地域再生計画の区域

岐阜県高山市の全域

4 地域再生計画の目標

本市は、東京都に匹敵する 2,177.61 k m²の市域を有し、その約 92%の面積を森林が占める日本一広大な地方都市である。周囲は標高 3,000mを超える飛騨山脈（北アルプス）、御嶽山、白山などの豊かな自然に囲まれ、農林畜産業を中心とする中山間地域から、重要伝統的建造物群保存地区を含む中心市街地に至るまで、多様で変化に富んだ地域により構成されている。

春と秋の高山祭や古い町並に代表される歴史・文化をはじめ、数多くの有形・無形の文化財を有しているほか、万葉の時代「飛騨の匠」に端を発する木を活かしたものづくりのまちのDNAは、伝統工芸や家具などに代表される地場産業に息づいている。これら先人たちが大切に守り育んできた歴史・文化や人々の営みは、「飛騨高山」として知られる本市を特徴づける貴重な地域資源となっている。

また、飛騨の風土が育んだ飛騨人の人間性は、おもてなしの心や人情味、派手さを嫌う勤勉・実直さといった現代社会では忘れられがちな日本人の心を、今も脈々と受け継いでおり、これらが本市の魅力を支える基礎・土台となっている。

国立社会保障・人口問題研究所の将来推計によると、当市の人口は国や岐阜県全体よりも早いスピードで減少している。平成 12(2000)年の 97,023 人をピークに減少を続けており、将来推計においては高山市第九次総合計画（以下、「総合計画」という。）初年度の令和 7 (2025)年の 78,262 人に比べ、同計画期間終了時の令和 17 (2035)年には約 68,000 人（令和 7 (2025)年比▲13.1%）に減少する

と見込んでいる。

年齢区分別の人口動態では、高齢者人口は令和 7 (2025) 年の 27,762 人 (35.5%) から令和 12 (2030) 年には 27,153 人 (37.1%) になり、その割合は増加すると予想される。一方で、年少人口は 8,831 人 (11.3%) から 7,383 人 (10.1%) に、生産年齢人口は 41,669 人 (53.2%) から 38,565 人 (52.8%) にそれぞれ減少すると見込んでおり、日本全体よりも早いペースで人口減少や少子高齢化が進展することが予測される。

自然動態の状況については、平成 16 (2004) 年に死亡数が出生数を上回り、自然減に転じている。死亡数は平成 23 (2011) 年から横ばいの傾向にあるものの、出生数は平成 14 (2002) 年の 990 人をピークに減少傾向にあるため、自然動態の減少幅が拡大している。令和 4 (2022) 年は、出生数が 509 人、死亡数が 1,237 人であった。

社会動態の状況については、平成 18 (2006) 年以降は一貫して転出超過となっており、令和 5 (2023) 年は 345 人の転出超過であった。4 年制大学がなく、都市部への通勤・通学も困難といった地理的条件などから、10 歳代後半～20 歳代前半の若者が進学・就職で市外へ転出し、その後戻ってくる者が少ないため、社会減が進むとともに、出生数が死亡数を下回る自然減が今後も進むことが予測される。

一方で、市内の世帯数は令和 2 (2020) 年に 32,748 世帯で、平成 17 (2005) 年から 574 世帯増加しており、1 世帯あたりの人員が減少していることから、核家族の更なる増加や単身高齢者の増加が想定される。

また、本市における就業者数は、平成 12 (2000) 年の 54,403 人から令和 2 (2020) 年には、45,820 人 (▲15.8%) に減少している。

このように、人口減少が加速する中、地域活動や経済活動など、様々な分野における人材不足、人的資源の縮小を起因とした様々な課題に対し、これまで以上の対応が求められている。

このような社会活動や経済活動が縮小していく状況を見据えて、DX (デジタルトランスフォーメーション) や多様性などの新たな視点を加え、市民・関係団体・行政など多様な主体が協力して地域や暮らしの課題解決に努め、市民が充実した毎日を過ごせる、持続可能なまちをつくる。

なお、これらに取り組むに当たっては、次の事項を本計画期間における基本目標に掲げる。

- ・基本目標 1 (福祉・医療・健康) 障がいや病気の有無、年齢などに関わらず、生き生きとした暮らしの実現
- ・基本目標 2 (こども・教育・交流) 飛騨高山で生まれ、育ち、学び、生活することに、喜びが持てる暮らしの実現
- ・基本目標 3 (都市基盤・防災・景観) 生活の基盤である、住居、インフラ、災害への備えなどが整った、安全で安心した暮らしの実現
- ・基本目標 4 (森林・環境・エネルギー) 飛騨高山の豊富な森林や自然資源を守り、育て、活用した、快適で潤いに満ちた暮らしの実現
- ・基本目標 5 (産業・労働・プロモーション) 飛騨高山の風土や有形無形の財産を活かした、活力と働きがいのある暮らしの実現
- ・基本目標 6 地域間連携 (エリア) のまちづくり
- ・基本目標 7 着実な計画の推進

【数値目標】

5-2の ①に掲げる事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2029年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	「地域で支え合い、安心して暮らせる環境が整っている」と感じている市民の割合	53.8%	53.8%以上	基本目標 1
ア	「障がい者が必要な支援を受け、自立して暮らせる環境が整っている」と感じている市民の割合	44.8%	44.8%以上	基本目標 1
ア	「高齢者が生きがいを持ち、安心して暮らせる環	44.8%	44.8%以上	基本目標 1

	境が整っている」と感じている市民の割合			
ア	「こどもが健やかに育つ環境が整っている」と感じている市民の割合	68.9%	68.9%以上	基本目標 1
ア	「安心して医療を受けられる環境が整っている」と感じている市民の割合	53.8%	53.8%以上	基本目標 1
ア	「主体的な健康づくりや病気の予防に取り組む環境が整っている」と感じている市民の割合	51.9%	51.9%以上	基本目標 1
イ	「こどもが健やかに育つ環境が整っている」と感じている市民の割合	68.9%	68.9%以上	基本目標 2
イ	「学校・家庭・地域が連携した児童生徒の教育環境が整っている」と感じている市民の割合	61.4%	61.4%以上	基本目標 2
イ	「文化財や伝承芸能が保存、継承され、郷土の歴史文化に誇りを持っている」と感じている市民の割合	70.9%	70.9%以上	基本目標 2
イ	「文化芸術や生涯学習などに触れ、学び、成果を活かせる環境が整っている」と感じている市民の割合	53.2%	53.2%以上	基本目標 2

イ	「スポーツをしたり、楽しんだりできる環境が整っている」と感じている市民の割合	48.3%	48.3%以上	基本目標 2
イ	「国内外との都市と様々な分野において交流が進んでいる」と感じている市民の割合	50.2%	50.2%以上	基本目標 2
ウ	「保全と開発とのバランスのとれた秩序ある土地利用が行われている」と感じている市民の割合	29.1%	29.1%以上	基本目標 3
ウ	「日常的に利用できる公共交通体系が整っている」と感じている市民の割合	32.7%	32.7%以上	基本目標 3
ウ	「快適な住宅環境や公園、美しい景観が保たれている」と感じている市民の割合	59.4%	59.4%以上	基本目標 3
ウ	「安全で快適に移動できる道路環境が整っている」と感じている市民の割合	60.1%	60.1%以上	基本目標 3
ウ	「安全でおいしい水が提供され、汚水処理が適切に行われている」と感じている市民の割合	90.1%	90.1%以上	基本目標 3
ウ	「災害から命・財産を守	54.1%	54.1%以上	基本目標 3

	るための準備や体制が整っている」と感じている市民の割合			
ウ	「消防救急体制が整っている」と感じている市民の割合	77.3%	77.3%以上	基本目標 3
エ	「身の回りに木や森に親しむ環境が整っている」と感じている市民の割合	63.7%	63.7%以上	基本目標 4
エ	「ごみ処理や分別収集が適切に行われ、良好な生活環境が保たれている」と感じている市民の割合	87.6%	87.6%以上	基本目標 4
エ	「自然環境の保全や自然エネルギーの活用をはじめ、地球環境を守る取り組みがすすんでいる」と感じている市民の割合	45.9%	45.9%以上	基本目標 4
オ	「地元の農産物や木材が広く消費され、農畜産業や林業が活性化している」と感じている市民の割合	49.0%	49.0%以上	基本目標 5
オ	「市内で生産されたものが市内で販売、消費されるなど、地域内で経済が循環し、活性化している」と感じている市民の割合	55.1%	55.1%以上	基本目標 5
オ	「若者や女性、高齢者、障	31.0%	31.0%以上	基本目標 5

	がい者、外国人など、働く人が望む就労の場が確保されている」と感じている市民の割合			
オ	「移住を希望される方を受け入れる環境が整っている」と感じている市民の割合	36.3%	36.3%以上	基本目標 5
オ	「観光客の来訪が、市民生活の向上につながっている」と感じている市民の割合	50.5%	50.5%以上	基本目標 5
カ	「高山地域や各支所地域が地域を超えて連携した（一体となった）取り組みにより地域が活性化している」と感じている市民の割合	32.3%	32.3%以上	基本目標 6
キ	「多様な主体（市民、町内会、地域内団体、学校、事業者、行政等）が協働してまちづくりに取り組んでいる」と感じている市民の割合	52.9%	52.9%以上	基本目標 7
キ	「必要な情報が入手できるとともに、市政へ意見を言える環境が整っている」と感じている市民の割合	42.4%	42.4%以上	基本目標 7
キ	「年齢や性別、障がいの有	39.2%	39.2%以上	基本目標 7

	無、国籍などに関わらず、 多様な生き方・暮らし方への 理解が深まっている」と 感じている市民の割合			
キ	「効率的で良質な行政サービスが提供されている」と感じている市民の割合	44.7%	44.7%以上	基本目標 7
キ	「地域におけるデジタル活用が進んでいる」と感じている市民の割合	39.2%	39.2%以上	基本目標 7
キ	「将来を見据えた財政運営に取り組んでいる」と感じている市民の割合	29.4%	29.4%以上	基本目標 7

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

高山市まち・ひと・しごと創生事業

ア 障がいや病気の有無、年齢などに関わらず、生き生きとした暮らしを実現する事業

イ 飛騨高山で生まれ、育ち、学び、生活することに、喜びが持てる暮らしを実現する事業

ウ 生活の基盤である、住居、インフラ、災害への備えなどが整った、安全で安心した暮らしを実現する事業

エ 飛騨高山の豊富な森林や自然資源を守り、育て、活用した、快適で潤い

に満ちた暮らしを実現する事業

オ 飛騨高山の風土や有形無形の財産を活かした、活力と働きがいのある暮らしを実現する事業

カ 地域間連携（エリア）のまちづくりをすすめる事業

キ 着実に計画を推進する事業

② 事業の内容

ア 障がいや病気の有無、年齢などに関わらず、生き生きとした暮らしを実現する事業

- ・市民一人ひとりのニーズが多様化・複雑化するなかで、地域、事業者、行政、その他関係者が一体となった支援に取り組む。
- ・障がい者や高齢者などが住み慣れた地域で自立した生活を維持できる環境整備に取り組む。
- ・どこに住んでいても適切にサービスを享受し、心身ともに豊かな生活を送ることができる環境整備に取り組む。

【具体的な事業】

- ・多様化、複雑化する課題やニーズに対応する支援や対策
- ・障がい者の地域での自立した生活を維持できる環境の整備
- ・介護が必要となる状態を予防し、社会で活躍できる状態を長く続けられる取り組み
- ・核家族化や地域のつながりの希薄化による子育ての孤立化への支援
- ・どこに住んでいても、医療を受けることができ、将来にわたり持続可能な医療体制の整備
- ・健康寿命の延伸に向けた取り組みや病気の予防に向けた対策 等

イ 飛騨高山で生まれ、育ち、学び、生活することに、喜びが持てる暮らしを実現する事業

- ・子どもや若者がこのまちに生まれ、育つことに誇りを持てる環境づくりや健やかに育つための支援に取り組む。
- ・世代に応じて、必要な学びの場が提供され、誰もが必要なときに必要な学びができる環境整備に取り組む。

- ・文化や芸術、スポーツなど暮らしを豊かにするための環境整備や、様々な交流の場の提供に取り組む。

【具体的な事業】

- ・こどもが健やかに育つため、成育環境の確保や発育・発達支援
- ・児童生徒の多様な学びに対するニーズへの対応
- ・各地域における歴史遺産や継承されてきた伝統文化の維持・継承
- ・世代を問わず、市民が関心のあることや社会の変化に対応するための学びの機会の提供
- ・楽しみながら気軽にスポーツを体感できる機会の提供
- ・姉妹友好都市等とのつながり（歴史）を再確認するとともに、次世代に継承 等

ウ 生活の基盤である、住居、インフラ、災害への備えなどが整った、安全で安心した暮らしを実現する事業

- ・急激な社会情勢の変化や地域社会の変容に対応し、長期的な視点で社会基盤の整備に取り組む。
- ・緊急時でも支え合いの体制が確立し、安全安心な暮らしが維持できる仕組みの構築に取り組む。
- ・日々の暮らしのなかで、憩いや交流できる場の提供に取り組む。

【具体的な事業】

- ・長期的な視点は堅持しつつ、社会的な変化などに対応した都市計画
- ・地域の実情に沿った公共交通体制の確保
- ・安心して生活ができる住宅環境の整備
- ・中部縦貫自動車道の延伸や、東海北陸自動車道の4車線化、都市計画道路松之木千島線の整備など、道路交通網の大きな変化へ対応
- ・独立採算が求められる企業会計（上水道・下水道）として、経営基盤を強化
- ・災害に備え、市民の防災意識の向上を図るとともに、各地区における防災計画の策定や防災リーダーの育成を促進
- ・消防団をはじめとした地域の消防力を高める取り組み 等

エ 飛騨高山の豊富な森林や自然資源を守り、育て、活用した、快適で潤い

に満ちた暮らしを実現する事業

- ・市域のほとんどを占める森林や自然資源の有効活用とともに、自然環境の保全及び自然との共生に取り組む。
- ・地球環境の保全に向けた循環型社会の形成に取り組む。
- ・地球温暖化による様々な影響を軽減するため、脱炭素社会の実現に向けて取り組む。

【具体的な事業】

- ・年代を問わず、森や木に触れられる環境、森や木を活用した教育など、機会の創出
- ・新ごみ処理施設の円滑な運用、埋立処分場の延命化など、現状を踏まえたごみの適正処理に対応
- ・豊かな自然資源を活用したエネルギーの地産地消に取り組む 等

オ 飛騨高山の風土や有形無形の財産を活かした、活力と働きがいのある暮らしを実現する事業

- ・農林畜産業等を持続可能な産業とするため、多様な人材の確保や育成、生産基盤の整備、関係者が連携した販路拡大に取り組む。
- ・多様化するニーズや時代の変化に柔軟に対応しながら既存産業の稼ぐ力の強化と市内資金循環の促進による経済の好循環の実現に取り組む。
- ・市内で製造、提供される製品やサービスなどが市民の誇りや自信となり、国内外にも広く支持されるよう付加価値の強化に取り組む。
- ・事業者の有する販路や財産、技術、精神を次の世代へ引き継ぐとともに、地域産業の持続的な成長に取り組む。
- ・多様な人材を確保・育成し、誰もが能力を活かしながら働きがいを持って働くことができる環境の構築や所得の向上に取り組む。

【具体的な事業】

- ・農業・林業・畜産業の事業継承のための取り組みや、特色ある地域産品、そのための基盤となる環境整備など、生産地づくり
- ・域外市場産業の高付加価値化や競争力の強化
- ・誰もが働きやすい、働きがいのある労働環境の整備
- ・移住者が集まり、住み続けられる環境を整備

- ・郷土に対する誇りと先人たちの築き上げた有形無形の財産の効果的な発信 等

カ 地域間連携（エリア）のまちづくりを進める事業

- ・国内有数の山岳資源や温泉資源を有するエリア（飛騨山脈の山岳資源や自然を活かしたまちづくり）
- ・街道景観と都市部とのアクセスを有するエリア（自然豊かな街道景観と都市部とのアクセスを活かしたまちづくり）
- ・南北の連携軸を有するエリア（国道41号、JR高山本線沿線の自然と文化資源を活かしたまちづくり）
- ・高地の特性と長野県方面からのアクセスを有するエリア（国道361号、主要地方道久々野朝日線を活かしたまちづくり）
- ・高規格道路沿線（延伸）の立地を有するエリア（中部縦貫自動車道、東海北陸自動車道を活かしたまちづくり）

【具体的な事業】

- ・松本高山 Big Bridge（ビッグブリッジ）構想の推進
- ・自然や農業を体験できる施設などを活用した観光・交流の振興
- ・日本遺産を活用した周遊型の観光の推進
- ・高地トレーニングエリアにおける利用促進
- ・中部縦貫自動車道の整備促進、中間インターチェンジの整備促進 等

キ 着実に計画を推進する事業

- ・市民協働・情報発信・多様性の着実な推進
- ・計画の着実な推進
- ・着実な財政運営

【具体的な事業】

- ・地域活動における担い手の確保
- ・伝わる広報活動の展開
- ・自分らしく生きられる、多様性の尊重
- ・新たな体制によるまちづくり
- ・新たな官民連携による効果的な施設の整備
- ・公有財産の有効活用 等

※ なお、詳細は高山市第九次総合計画のとおり。

③ **事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））**

4の【数値目標】に同じ。

④ **寄附の金額の目安**

9,410,000千円（2025年度～2029年度累計）

⑤ **事業の評価の方法（PDCAサイクル）**

毎年9月頃、高山市総合計画審議会による効果検証を行い、翌年度以降の方針について決定する。目標の達成状況については、検証後速やかに高山市公式ホームページ上で公表する。

⑥ **事業実施期間**

2025年4月1日から2030年3月31日まで

6 計画期間

2025年4月1日から2030年3月31日まで